小泉出屋敷の道路脇にある「小白水」の井戸には、こんな伝説が。
昔、井戸に小さな龍が閉じ込められていた。通りかかった旅の僧が哀れに思い念仏で助けてやると、龍は老人の姿になり、感謝を述べて立ち去った。
それから井戸はどんな日照りにも枯れることがなく、「小白水」と呼ばれて、小泉の地名の由来にもなったという。
これは近くの善福寺に伝わる話で、「白＋水」で「泉」、分かりますがこれは一つのお話です。
本当は、昔はこのあたりに綺麗な泉が沢山あったのでしょう。だから人々が集まり、小泉になったと思うのですがどうでしょう。
（小白水　小泉　　２００３）

小泉の小白水の泉から、善福寺の前を通り、の小川を通り富雄川へ流れていた。この井戸から小川を通じて善福寺に通う小龍の話が残っている。
善福寺中興の祖である鏡誉上人が、庭前の小井に向かってお祈りをしていると、一人の老人が現れ、「私は過去の過ちで罰を受け、小白水の井戸のなかに小龍として閉じ込められている。これまで仏の道へと導いてくれるよい師に出会えなかったが、今あなたに会えた」と言った。
上人は、たいへん憐れに思い、ひと夏の間、懇切に法を伝え、ついにりっぱな戒を授け終わると、老人は「おかげさまで龍のからだから元に戻ることができ、極楽に往生できる身となりました。御礼に、小白水の井戸の水を大旱魃の時も枯れることのない泉といたしましょう。」と言うと、いづことなく消え去った。
その後この小白水の井戸を龍泉と名づけ、善福寺の山号を龍泉山と改めた。そして、この付近は、未だ旱魃知らずという。
大和郡山付近は京都のように地下水が豊かなところといわれます。なかでも小泉は、矢田松尾からの伏流水が多く、昔から丘陵のあちこちに清水の湧き出る泉があったのでしょう。小白水はその丘陵の一番高いところ、さらに上に古墳時代前期の小泉大塚古墳があり、遠い時代このあたりは神聖な場所とされていたところ、小白水は小泉に暮らす人々には犯してはならない神聖な泉だったのでしょう。
古代や中世には人々に恵みを与え、江戸時代には小泉の藩主となった茶人に愛された、明治以降の付近の近代化の中で少しずつ涸れていきます。そして昭和のはじめに丘陵を越えて造られた自動車道で、完全に姿を消してしまうのです。